



⑧

そこでの高校生たちのコミュニケーションの場や体験の機会が気薄であると感じ「体験する機会を作り出す」をモットーに活動してこられました。そんな中上さんとハートグローバルの出会いはいじぶ

○今回私たちが取材したのは日本にハートグローバルの活動を誘致しているNPO法人じぶん未来クラブの中上さんです。中上さんは学生時代に子どもたちのボランティアに4年間参加し、その延長で社会教育の団体で20年間勤められました。そこからは通信制高校の運営会社に移られ、

The Fourth Year

○ハートグローバルの活動である「ミュージック・アウトリーチ」は、世界共通言語である音楽を通して、子どもたちが共に学び、お互いを尊重し、新たな可能性を発掘するプログラムです。

長を目にして以来、ハートグローバルの素晴らしさを広め、多くの子どもたちの学びと成長のために教育現場への誘致を行なっております。
(高1・あおい)



中上さん (取材時)

ん未来クラブの窓口と学校の窓口となっていて、このことでした。これまでになかったような子どもたちの成長

ミュージック・アウトリーチは、ダンスの技術向上や、英語を学ぶためのプログラムではなく、受講する子どもたちはキャストの「失敗しても大丈夫」という精神を見て、一歩踏み出して挑戦することの大切さや、感じたことをそのまま表現することの大事さ、自信や達成感を得ることが目的です。
(高1・たろつ)



ワークショップの様子

このプログラムでは、キャストと呼ばれる若者たちと子どもたちが協力し、三日間のワークショップで、約1時間の歌って踊るショーを作り上げます。





○私は今回の取材で「日本人ではなく海外の方が日本の子どもたちを指導することで、学びや成長にどんな違いが生まれるのか？」について質問をしました。回答では、私が元々持っていた日本人と外国人、という視点ではなく、キャストが世界各地から集まっていることを前提に話していただきました。集まったキャストは、事前研修でのチーム作りを経て、互いの多様性を認め合う経験をした上でワークショップに臨んでいるそうです。そしてワークショップでは自身の経験を活かし、参加者同士のより良いチーム作りを手助けしているのだと知ることができました。これを聞いて、人とのコミュニケーションを知るにはやはり体験が大きい

切なんだと感じました。また、失敗からの学びについても話していたことで、私も失敗を意識し過ぎず、たくさんの体験をして、人とのコミュニケーションの面白さを知っていきたいと思いました。
(高2・るーな)

○僕は取材の中で「ハートグロバルのプログラムに参加した子どもにどんな変化が見られましたか？」と質問しました。「最終的にどう変化したかを感じるのは、やはりその答えは、本人の中にあるんだと思います。外から見たら少しの変化でも、本人の中では大きな変化だということもある。なので、みんなが舞台上上がって何かの役割を担ってくれたっていうの

は、大きな意味があります。」と中上さんが答えてくれました。僕もハートグロバルに参加したことがあります。普段は失敗を恐れて勇気を出すことができなかったのですが、ワークショップで「前でダンスを踊る？」と誘われ、思い切って前で踊りました。そのことでいろんな活動に勇気を出して入っていけるようになりました。今回の取材で心に響いたことは、「成長ができたかどうかの答えは、本人の中にある。人それぞれ違うといい」ということです。ゴールは一つではなく、自分がどれくらい成長したのかを大事にしたいと感じました。(中1・Minaty)

○私は今回、「自分を表現できる





安心感」という言葉に共感しました。私は、夏休みに保育園で手伝いをしていた際に、ひとりの年長さんが周りを気にしながら窮屈そうに絵を描いているのに気づきました。言葉をかけられず、もどかしい気持ちでいましたが、中上さんのお話を聞き、その子には「自分を表現できる安心感」が少なかつたのかもしれないと感じるようになりました。

振り返れば、私自身も、高校のダンス部で、同期や先輩と、コミュニケーションを取り、知り合うことで、だんだんと「自分をさらけだしても受け止めてくれるんだ」という安心感を持つようになり、ダンスへの変化も顕著に表れました。

中上さんはハートグローバルの

キャストの方々に「共に挑戦をリ

キャストの方々に「共に挑戦をリ
スペクトし合うことで団結してい
く」とおっしゃっていました。日
々のコミュニティの中で、「自
分を表現できる安心感」を持ち、
生み出すことで、仲間とより良い
創造をしていきたいと強く感じま
した。

(高1・さとし)

今回の取材を通して一番印象に残ったのは、キャストのみなさん自身が「多様性を受け止め、認め合い、ワンチームとして活動をする」というミッションがある」というお話です。キャストさん同士も初めて会ってからそれ程長くない期間でコミュニケーションを図りハートグローバルの活動を始めるそうです。私は最近、多くの人に

知ってもらいたい気持ちが大きくなるにつれ、体裁や見栄えを気にしてしまい、本質的な「伝えたいこと」からずれてしまっていると感じることがあります。『てらスクール』においても、私は「発信者」として毎月記事を書かせていただいています。他のメンバーの記事を一読者として読むと、その語りかけや口調がとても自分に染みることがあり、自分の記事にも活かしていきたいという新たな発見があります。「発信者」となった時伝えよう、結果を出そう、と考えがちですが、相手に一番伝わる方法の答えは、まずは自分が体験してみるという案外身近なところに潜んでいるのかもしれないと考えさせられました。(高1・のの)

